

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第9号—

令和4年5月30日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

「自ら学ぶ力」と、「他人から学ぶ力」



運動会が終わり1学期も折り返しを過ぎようとしています。大きな行事を終え、学習にも本格的に取り組んでいきたいと思えます。「学力」は、子供たちの豊かな未来を切り開くために必要な資質であり、学力向上は学校の大きな責務です。「学力」という言葉をよく見ると「学ぶ力」と書きます。この学ぶ力というのは、「自ら学ぶ力」と、「他人から学ぶ力」を指すと思えます。「自ら学ぶ」ということと、「他人から学ぶ」ということを考えるにあたって、私自身が小学生のときに出会った2人の先生の話をしたしたいと思います。

まず、一人目のA先生は、野球が大好きで、休み時間や放課後も一緒に野球をしてくれました。「自主学習」という宿題を出してくれて自分の好きな学習をやればやるほど、スタンプを押してくれました。それが楽しみで、毎日続けて家庭学習をするようになりました。社会科では、歴史の話をたくさんしてくれて、歴史上の人物の伝記を読むことが大好きになりました。それから私は、自分の世界を広げる社会科の学習が大好きになり、自分から学ぶ楽しさを知っていきました。

時を同じくして、もう一人、B先生がいました。音楽専科の先生です。その先生は、とにかく厳しくて、リコーダーの練習の時に、指使いを少しでも間違えるとすごい勢いで叱るのです。できるようになるまで放課後にも音楽室へ呼ばれて特訓しました。「音を楽しむ」はずの音楽が、「音が苦」の時間となりました。小学校を卒業して中学生になるとソプラノリコーダーからアルトリコーダーに替わりました。ところが、へたくそで落ちこぼれだった私が、中学校では「リコーダーがうまい子」ということになったのです。それから音楽が大好きになりました。苦痛であった音楽が、みんなから褒められ認められることで喜びの時間となりました。小学校時代に、B先生からみっちり鍛えられたことで、喜びを感じることができたのです。今思うと、2年間にわたってリコーダーの演奏法について基礎をしっかり教えてくださったのだと思えます。

ただ「自分の力で学習してみなさい！」だけでは子供の成長に限りがあります。そして最近の子供たちは、辛いことがあるとすぐに逃げてしまい、耐性がないとも言われています。苦手なものはやらない、できなくても構わないというような態度ではなく、自ら積極的に学ぶ姿勢をもちながら、時には厳しい教えに耐えるということも必要なのではないのでしょうか。2人の先生は、社会科と音楽の楽しさを教えてくださり、私の教員人生を創ってくれたと言っても過言ではありません。これからも2人の先生が教えてくださった「学ぶということの本質」を大切に、津吉小学校の児童の育成を図っていきたくと思っています。

6月行事予定

- 1日(水)・2日(木) 野外宿泊学習
- 6日(月)～10日(金) 家庭訪問
- 12日(日) 平戸市少年の主張大会
- 13日(月)～20日(日) 教育週間
- 13日(月) プール開き・クラブ活動
- 14日(火) ようこそ先輩
- 15日(水) クリーン作戦・フラワーロード
- 17日(金) 授業参観・語る会・懇談会
情報モラル研修会